

講義名	研究演習			
講義コード	45001	授業形態		開講期・曜日・時限
担当教員	持田 信治	ゼミ・演習コード		前期 木曜日 5時限 / 前期 木曜日 6時限
				SEM340

学部・学科	演習分野
商学部 経営学科	経営戦略とプロジェクト・マネジメント論

概要説明

本ゼミでは研究演習に引き続き、プロジェクトの計画方法を練習する。そして研究演習では具体的な問題を科学的な手法を用いて解決する手法を学ぶ。具体的には回帰分析やクロス分析を用いて課題解決の演習を行う。また、プロジェクトでは人とお金と設備・物を駆使して目的の達成を目指すため、費用計画と工期計画の方法についても説明を行う。加えて卒業論文の作成に向けて、論理的な文章の作成練習を行い、最終的に卒業研究の成果として論文作成を行う。本演習は商学部のディプロマポリシーに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、論理的な思考に基づいた具体的な改善策や解決策の提案ができる能力の醸成に寄与する。

主な卒業論文のタイトル

- 1 中古車販売価格の推移に関する分析
- 2 プロ野球選手の球団別の成績と年俸
- 3 好まれる弁当の特徴に関する分析
- 4 中古車を決定する要因に関する価格調査・分析
- 5 一戸建てとマンションの販売価格を決定する要因に関する調査
- 6 学生マンション家賃決定する要因と回帰分析
- 7 コミュニケーション能力の測定方法について
- 8 プロ野球選手の評価方法と年俸について
- 9 数量化1類と重回帰分析を用いた住宅販売価格の推定
- 10 中古車価格を決定する要因について
- 11 賃貸住宅の設備条件と賃料料の関係に関する調査
- 12 スマートフォンのアプリケーションゲームに関する調査
- 13 中古バイクにおける色と価格の関係
- 14 中古二輪車の価格決定に関わる要因分析
- 15 回帰分析とクロス分析を用いた若者の志向に関する分析
- 16 数量化1類分析を用いた中古車価格に関する分析
- 17 数量化2類を用いた中古車価格に関する分析
- 18 海外移住の魅力について
- 19 マスメディアとインターネットメディアに於けるビジネスモデルの比較と調査
- 20 ソーシャルメディアネットワークを利用したマーケティングの比較と調査

教員よりの要望

知識と技術の利用と問題解決能力について皆さんと一緒に考えるため、課題解決やプロジェクトマネジメントに興味のある学生を求める。

選考方法

- (1) ゼミの目標に関して説明を行った後、面接を行い、ゼミの内容、進め方について納得をしてもらえる学生を希望する。
- (2) 研究演習から論文の書き方の練習を行うので、演習内容に同意してもらえる学生を希望する。

評価方法

- (1) 出席は講義参加度やRESPON又は復習テストや課題の提出で判断する。
- (2) レポートの提出状況とゼミ中の態度、発言状況を考慮して評価する。
- (3) 授業参加度50点、課題50点で評価する。
- (4) 出席が必須であり、出席の悪い学生や態度の悪い学生はゼミをやめてもらうこともある。

教員英字氏名	研究室
Shinji Mochida	3512

最終学歴

1984年3月25日 九州工業大学 工学部 情報工学科 卒業

学位

博士(学術)

主な研究活動・社会活動・研究業績

- (科研)
- (研究テーマ1)
- 3秒ルールインテリジェンスを用いた様子見機能実現に関する研究
- 研究代表者
- 期間) 2020年4月～2023年3月
- 金額) 442万円
- (研究テーマ2) ベイジアンネットワークによるソフトウェア要求仕様の確率的リスク評価に関する研究、研究代表者
- 期間) 2017年4月～2020年3月
- 金額) 488万円
- (研究テーマ3) プロジェクト管理に於けるパフォーマンス測定方法に関する調査研究、研究代表者
- 期間) 2012年4月～2015年3月
- 金額) 520万円
- (研究テーマ4) エマージング感染症のための教育用プログラムの開発、分担者
- 2005年～2006年
- 金額) 320万円

趣味・特技

趣味はジョギングやドライブ。ドライブではナビゲーションはほとんど使わず、機械は自動ではなく、手動が好み。

所属

商学部 経営学科 経営戦略コース

所属学会

日本経営システム学会・関西支部幹事
バイオメディカル・ファイ・システム学会

専門分野

情報処理(特に言語処理)
プロジェクトマネジメント
リスクマネジメント

担当科目

研究演習、研究演習、卒業研究、リスクマネジメント論、技術開発論、品質管理論、オペレーションズリサーチ、マネジメントサイエンス、異文化理解、企業論特別講義(製造業)、経営学科へのいざない

備考

三菱重工業(株)勤務を経て、2005年(平成17年)4月より大学の教員。社員の時には新製品開発にも携わっており、製品企画、資金調達、開発、製造、販売に関する一連の業務経験を持つ。今後、業務経験を生かして、企業経営と技術開発に関する具体的な問題に関して学生と解決策策定を希望する。製造業に於ける企業経営では製造の企画、技術開発、設計、製造、販売による資金回収のサイクルがあり、このサイクルを如何に効率的に、そして如何に早く回すかが企業経営に於ける1つのプロジェクトとなる。そこで、ゼミではプロジェクト見しく理解できるように具体的に企画書の作成やパソコンを使用したプロジェクト企画の演習を行い、加えて卒業研究では学習の成果として卒業研究の仕上げを目指す。また、企業経営者の話を聞くことにより企業経営と技術開発に於けるポイントの習得を目指す。但し、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には課題を提示する

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
プロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、経営戦略策定に向けたデータ分析のポイントを解説する。